

## 海岸クロマツの低密度植栽によるコスト抑制

### 1 背景・目的

海岸防災林における主要な植栽樹種であるクロマツについては、松くい虫被害による枯死等も考慮し、従来は5,000本/haの植栽を行ってきたが、抵抗性クロマツの本格的普及を踏まえ、造林コストを抑制するため3,000本/haに減じた試験植栽を行い、成長初期の生育状況等について検証する。

### 2 技術のポイント

- (1)植栽後5年目までの樹高成長速度は、3,000本/ha植栽区と5,000本/ha植栽区で、ほぼ同程度である(図1)。
- (2)植栽後、隣接木と枝張りが接し飛砂防備機能を有するようになるまでの期間については、3,000本/ha植栽区で5年となり、5,000本/ha植栽区の4年(計算値)に対し、1年程度の遅れとなる(図2)。
- (3)土壌条件が良好な調査地において、植栽後5年目の形状比(樹高/胸高直径)を比較すると、3,000本/ha植栽区で平均68、5,000本/ha植栽区で平均86となり、3,000本植栽区において、より充実した樹形となる。

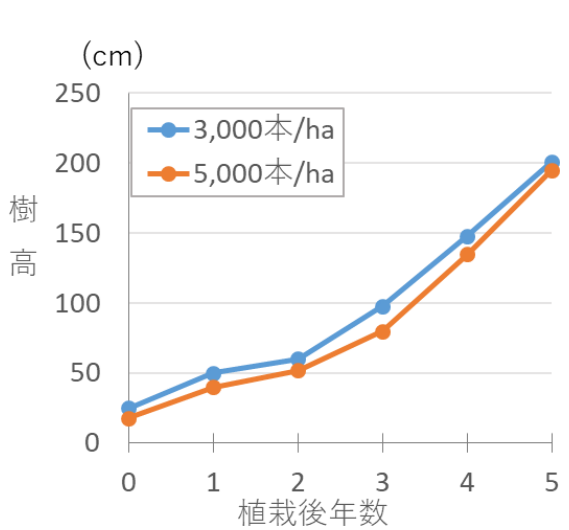


図1 平均樹高の年次変化

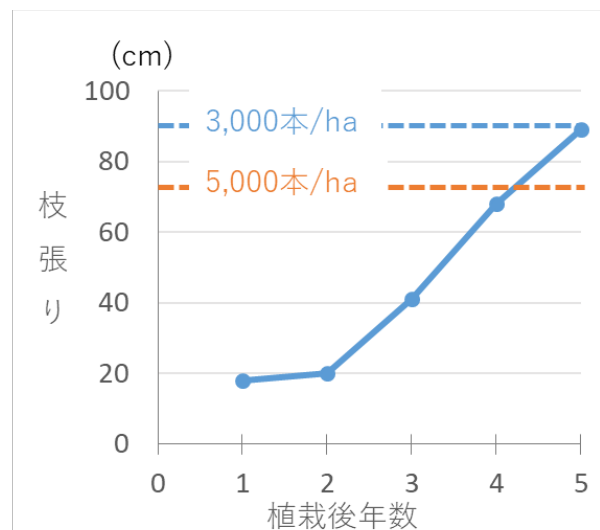


図2 平均枝張りの年次変化

(3,000本/ha植栽区)

破線：隣接木と枝張りが接する

枝張り長

### 3 成果の活用と留意点

海岸汀線近くでは季節風等の影響が特に強いため、防風柵等の設置による植栽木の保護が重要となる。

問合せ先：森林環境部 TEL 076-272-0673

担当者：千木 容